

エコアクション 21

2024 年度版
環境経営レポート

[期間 2024 年 1 月 ～ 2024 年 12 月]



2025 年 4 月 21 日 発行

目次

- ① 事業内容
- ② 環境経営方針
- ③ 実施体制
- ④ 環境経営計画
- ⑤ 環境経営活動の実績
- ⑥ 二酸化炭素削減実績グラフ
- ⑦ 環境経営活動の取組結果の評価
次年度の環境経営活動計画
- ⑧ 環境関連法規等一覧表・遵守評価
- ⑨ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無
- ⑩ 代表者による全体評価と見直し

① 事業内容

事業所名

株式会社 マエダ

代表者名

代表取締役 前田 聡悟

所在地

本社

〒114-0024

東京都北区西ヶ原 1-5-5

営業本部

〒332-0003

埼玉県川口市東領家 3-31-12

ドア工場

埼玉県川口市東領家 3-31-12

第一工場

埼玉県川口市東領家 3-31-12

第三工場

埼玉県川口市東領家 3-29-23

環境管理責任者

前田 聡悟

及び担当者の連絡先

T E L

048-224-1500

F A X

048-224-2309

E -mail

info@kk-maeda.co.jp

U R L

<http://www.kk-maeda.co.jp>

事業内容

建築用金物・鋼製建具・ガラス製品
アクリル製品の製造・施工

資本金

5 0 0 0 万円

従業員数

51人(2025年8月8日時点)

事業所の延床面積

2 5 4 8 . 1 0㎡

事業所の敷地面積

2 2 2 6 . 1 7㎡

認証・登録の対象範囲

全組織・全活動

② 環境経営方針

環境経営理念

株式会社マエダは、「作れないなら作れるようにします！困る前に頼んでください。総合建材の株式会社マエダです』を経営理念とし、現代建築に欠かせない多くの製品を通じて、お客様へ『安心』を提供する製作・施工会社です。

しかし、自社の事業活動を展開することで、環境には何らかの影響を与えており、その為に広く環境対策を、取り組むことが重要であると考えます。

環境保全対策に取り組むとともに、持続的発展が可能な社会づくりに、継続して貢献していくために、株式会社マエダは、以下の基本指針を推進します。

基本指針

1. 節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。
2. 省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。
3. 節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。
4. 環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。
5. グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。
6. 有害化学物質は効率的に使用し、排出量の削減に努めます。
7. 材料を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。

社内要所に環境経営方針を掲示し、全従業員にエコアクション21環境経営システムを徹底します。

2010/1/1 制定

2024/1/1 改定

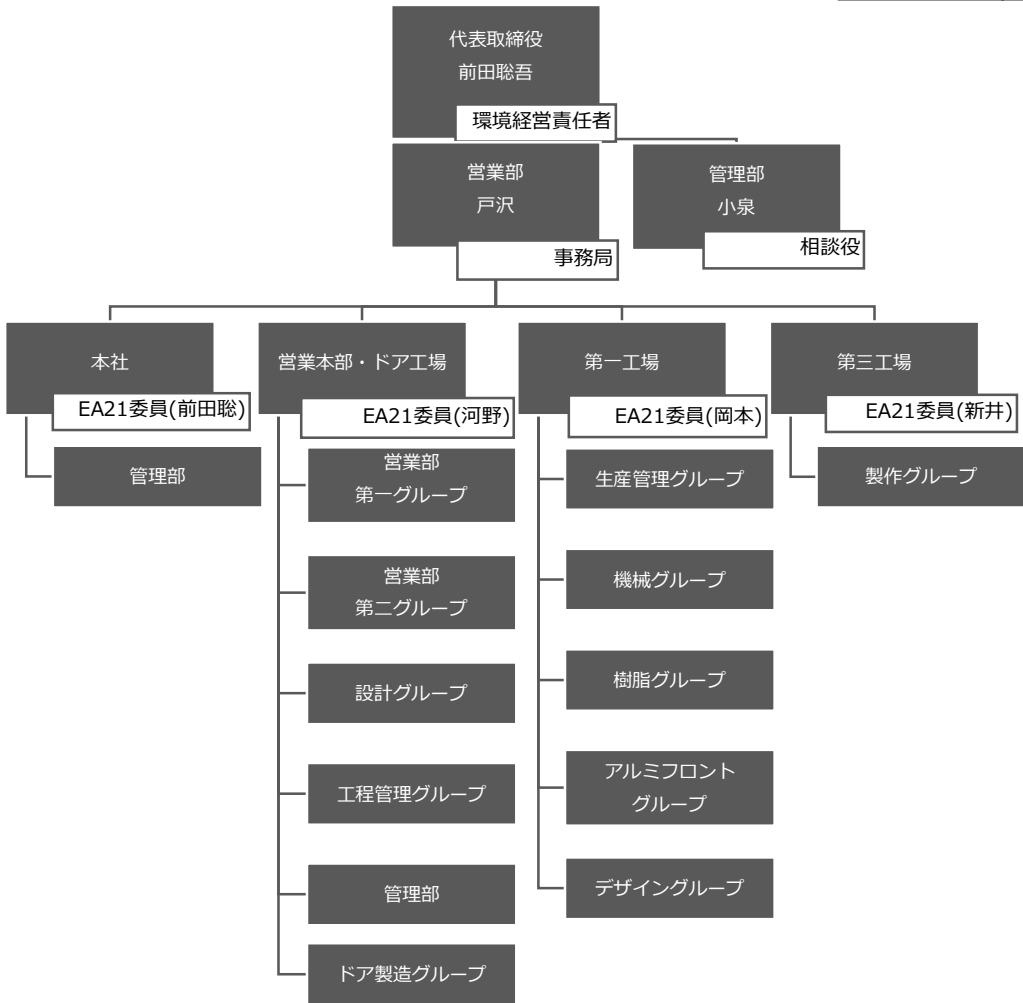
株式会社マエダ

代表取締役 前田 聡悟

③ 実施体制

株式会社 マエダ エコアクション21実施体制（総員51名）

代表者(承認)	環境経営責任者
前田聡悟	前田聡悟
2025/8/9	2025/8/9



代表者	環境管理責任者
<ul style="list-style-type: none">・環境経営方針の策定・環境管理責任者の任命及び実施体制の構築・経営資源(人材・資金・技術)の用意・全体の評価・見直し・環境経営レポートの承認・環境経営目標及び環境経営計画の承認・課題とチャンスの明確化	<ul style="list-style-type: none">・環境経営システムの総責任者としての役割権限・環境経営システムの実績を代表者へ報告・環境関連法規の取りまとめ・環境への負荷及び取組みへの自己チェックの実施・環境経営目標・経営計画の策定及び達成状況の確認・環境経営レポートの作成・E A 21委員会・環境経営活動の運営
事務局	E A 2 1 委員
<ul style="list-style-type: none">・データの集計・管理・各指標の取りまとめ→環境負荷の状況作成・環境関連文書及び記録の作成・E A 21委員会・環境経営の運営	<ul style="list-style-type: none">・環境経営計画策定、達成・実施状況確認、評価・是正処置、予防処置の実施・部門及びグループ環境経営計画の実施・E A 21委員会・環境経営の運営
全従業員	
<ul style="list-style-type: none">・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を理解・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加	

④ 環境経営計画

2024年度（2024年1月～2024年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

弊社の環境経営方針に沿って、環境経営目標設定ならびに環境経営計画を立てました。

環境経営方針	環境経営目標			環境経営計画
	項 目	中長期 2025～2027年度	今年度 2024年度	2024年度
節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。	電力(動力)使用に伴う二酸化炭素を削減する	・2025年度目標 2018年度比8%削減 ・2026年度目標 2018年度比9%削減 ・2027年度目標 2018年度比10%削減	2018年度比7%削減	必要でない照明、電源を消す 室内温度 夏28度、冬20度を目安としてエアコンを利用する
	ガソリン・軽油から出る二酸化炭素を削減する	・2025年度目標 2018年度比6%削減 ・2026年度目標 2018年度比7%削減 ・2027年度目標 2018年度比8%削減	2018年度比5%削減	各車両の燃費の月別測定・監視 エコドライブの徹底
	灯油から出る二酸化炭素を削減する	・2025年度目標 2018年度比4%削減 ・2026年度目標 2018年度比5%削減 ・2027年度目標 2018年度比6%削減	2018年度比3%削減	室内温度を冬20度を目安とする
省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。	産業廃棄物を削減する	・2025年度目標 2018年度比21%削減 ・2026年度目標 2018年度比22%削減 ・2027年度目標 2018年度比23%削減	事業者への委託量を2018年度比20%削減	分別の徹底により再利用を増やす
	一般廃棄物を削減する	・2025年度目標 2018年度比2%削減 ・2026年度目標 2018年度比2%削減 ・2027年度目標 2018年度比2%削減	事業者への委託量を2018年度比2%削減	分別の徹底・ゴミを持込まない
節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。	水の総使用量を削減する	・2025年度目標 2018年度比1%削減 ・2026年度目標 2018年度比1%削減 ・2027年度目標 2018年度比1%削減	水の総使用量を2018年度比1%削減	水を使用する場合は、こまめに蛇口を開閉するなど節水に心がける
事業所名	株式会社 マエダ			

④ 環境経営計画

2024年度（2024年1月～2024年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

弊社の環境経営方針に沿って、環境経営目標設定ならびに環境経営計画を立てました。

環境経営方針	環境経営目標			環境経営計画
	項 目	中長期 2025～2027年度	今年度 2024年度	2024年度
環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。	環境経営方針の全社的展開	全従業員が環境経営計画を分担する	環境経営目標、環境経営計画の策定への従業員の参画	グループウェアの表紙に環境経営方針を掲示する 部門別環境経営計画の策定
	地域の美化	毎月2回	毎月1回	会社・材料置き場外回りを清掃する
グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。	グリーン購入の推進	グリーン商品を優先的に購入する	グリーン商品を優先的に購入する	グリーン商品を優先的に購入する
有害化学物質は効率的に使用し、使用量の削減に努めます。	使用化学物質の管理と使用量の削減	有害化学物質の使用量を削減する	有害化学物質の使用量を削減する	使用化学物質の把握と集計 有害化学物質の代用品の検討と在庫管理の徹底
材料等を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。	建設混合廃棄物排出量の削減	建設混合廃棄物排出量の削減	建設混合廃棄物排出量の削減	材料を有効に使用し、廃棄する部分を減らす
※建設混合廃棄物とは 金属くず・紙くず・ガラスくず・がれき類・廃プラスチック類の混在した廃棄物を指す。				
事業所名	株式会社 マエダ			

⑤ 環境経営活動の実績（目標に対する達成状況）

2024年度（2024年1月～2024年12月）

環境経営方針	環境経営目標	数値項目	単位	営業本部 第一工場 ドア工場	第三工場	本社	合計
	項目						
節電と省エネルギー化を進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。	電力(動力)使用に伴う二酸化炭素を削減する	2018年基準年	kg-CO2	85,599	23,165	4,524	113,288
		2024年目標	kg-CO2	79,607	21,543	4,207	105,358
		2024年実績	kg-CO2	85,673	18,497	3,663	107,832
		2024年達成率	%	92.9%	116.5%	114.9%	97.7%
	ガソリン・軽油から出る二酸化炭素を削減する	2018年基準年	kg-CO2	17,368	11,161		28,529
		2024年目標	kg-CO2	16,499	10,603		27,102
		2024年実績	kg-CO2	14,115	8,395		22,510
		2024年達成率	%	116.9%	126.3%		120.4%
	灯油から出る二酸化炭素を削減する	2018年基準年	kg-CO2	11,875			11,875
		2024年目標	kg-CO2	11,519			11,519
		2024年実績	kg-CO2	7,784			7,784
		2024年達成率	%	148.0%			148.0%
	電力・ガソリン・軽油・灯油から出る二酸化炭素排出量の全社合計	2018年基準年	kg-CO2				153,691
		2024年目標	kg-CO2				143,979
		2024年実績	kg-CO2				138,126
		2024年達成率	%				104.2%
省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。	産業廃棄物を削減する	2018年基準年	k g	76,000			76,000
		2024年目標	k g	60,800			60,800
		2024年実績	k g	55,830			55,830
		2024年達成率	%	108.9%			108.9%
	一般廃棄物を削減する	2018年基準年	k g			270.5	270.5
		2024年目標	k g			265.1	265.1
		2024年実績	k g			193.7	193.7
		2024年達成率	%			136.9%	136.9%
節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。	水の総使用量を削減する	2018年基準年	m³	261	46	83	390
		2024年目標	m³	258	46	82	386
		2024年実績	m³	244	34	46	324
		2024年達成率	%	105.9%	133.9%	178.6%	119.2%
事業所名	株式会社 マエダ						

購入電力の二酸化炭素排出係数は、2021年度東京電力エナジーパートナーの調整後排出係数0.452kg-CO2/kWhを採用した。

⑤ 環境経営活動の実績（目標に対する達成状況）

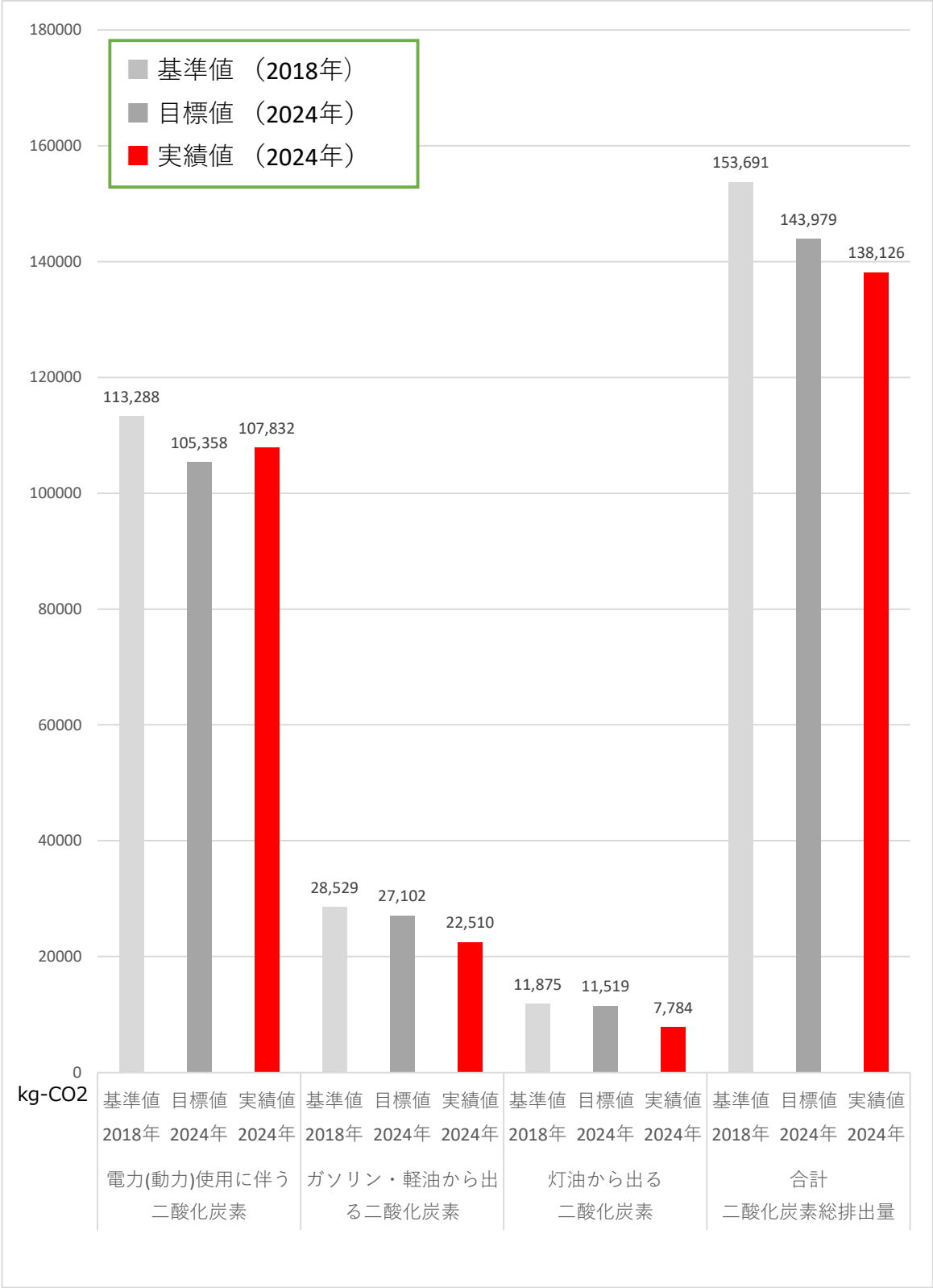
2024年度（2024年1月～2024年12月）

環境経営方針	環境経営目標	活動目標	達成状況
	項目		
環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。	環境経営方針の全社的展開	環境経営目標、環境経営計画策定への従業員の参画	数値実績無し
	地域の美化	地域の美化活動の実施（月1回）	月1回の実施
グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。	グリーン購入の推進	グリーン購入の推進	グリーン製品・エコ製品の優先的に購入を行った
有害化学物質は効率的に使用し、使用量の削減に努めます。	使用化学物質の管理と使用量の削減	使用化学物質の把握と集計	メタクリル酸メチルの保有量（2液型 ハードロック） 2018年度 12月末 49.74kg 2024年度 12月末 31.96kg 基準年から17.78kgの削減を達成した。
		有害化学物質の代用品の検討と在庫管理の徹底	在庫管理を徹底する事で無駄な使用を無くし目標を達成した。
材料等を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。	建設混合廃棄物排出量の削減	材料を有効に使用する事での建設混合廃棄物排出量の削減	材料の管理簿の作成と更新（現場毎の注文を減らし、複数の現場で材料が取れるように在庫管理を行った）
※建設混合廃棄物とは 金属くず・紙くず・ガラスくず・がれき類・廃プラスチック類の混在した廃棄物を指す。			
事業所名	株式会社 マエダ		

⑥ 二酸化炭素削減実績グラフ

建築用金物・鋼製建具・ガラス製品・アクリル製品の製造・施工事業活動を通じて
二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組みます。

2024年度
(2024年1月～2024年12月)



⑦ 環境経営計画の取組結果の評価

2024年度（2024年1月～2024年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

環境経営方針	環境経営目標		環境経営計画	実績 (達成率)	評価
	項 目	今年度 2024年度			
節電と省エネルギーを進め、二酸化炭素の発生抑制、排出削減に取り組み、地球温暖化防止に努めます。	電力(動力)使用に伴う二酸化炭素を削減する	2018年度比5%削減	必要でない照明、電源を消す 室内温度 夏28度、冬20度を目安としてエアコンを利用する	97.7%	②
	ガソリン・軽油から出る二酸化炭素を削減する	2018年度比3%削減	各車両の燃費の月別測定・監視 エコドライブの徹底	120.4%	④
	灯油から出る二酸化炭素を削減する	2018年度比1%削減	室内温度を冬20度を目安とする	148.0%	④
省資源による仕事を心がけ、廃棄物の発生を抑制し、発生量削減に努めます。	産業廃棄物を削減する	事業者への委託量を2018年度比18%削減	分別の徹底により再利用を増やす	108.9%	③
	一般廃棄物を削減する	事業者への委託量を2018年度比2%削減	分別の徹底・ゴミを持込まない	136.9%	③
節水に努め、排水量の抑制、削減に努めます。	水の総使用量を削減する	水の総使用量を2018年度比1%削減	水を使用する場合は、こまめに蛇口を開閉するなど節水に心がける	119.2%	③
事業所名	株式会社 マエダ				

⑦ 環境経営計画の取組結果の評価

2024年度（2024年1月～2024年12月）

環境経営責任者：前田聡悟

環境経営方針	環境経営目標		環境経営計画	実績 (達成率)	評価
	項 目	今年度 2024年度			
環境に関連する法規制・条例等を遵守し、環境配慮に努めます。	環境経営方針の全社的展開	環境経営目標、環境経営計画の策定への従業員の参画	グループウェアの表紙に環境経営方針を掲示する	達成	③
			部門別環境経営計画の策定		
	地域の美化	毎月1回	会社・材料置き場外回りを清掃する	達成	③
グリーン購入を推進し、環境負荷の少ない物品使用に努めます。	グリーン購入の推進	グリーン商品を優先的に購入する	グリーン商品を優先的に購入する	達成	③
有害化学物質は効率的に使用し、排出量の削減に努めます。	使用化学物質の管理と排出量の削減	有害化学物質の使用量を削減する	使用化学物質の把握と集計	達成	③
			有害化学物質の代用品の検討と在庫管理の徹底		
材料等を有効に使用し、建設混合廃棄物排出量の削減に努めます。	建設混合廃棄物排出量の削減	建設混合廃棄物排出量の削減	材料を有効に使用し、廃棄する部分を減らす	達成	③
※建設混合廃棄物とは 金属くず・紙くず・ガラスくず・がれき類・廃プラスチック類の混在した廃棄物を指す。					
事業所名	株式会社 マエダ				

凡例 ⑤目標を完璧に達成 ④目標を十分に達成 ③目標を達成 ②目標にやや不十分 ①目標に不十分

【総評】

環境活動はほぼ定着化されています。多少マンネリ感もありますが、従業員同士が協力し合い、活動ができればと考えます。

⑧ 環境関連法規等一覧表・遵守評価

⑧ 環境関連法規等一覧表・遵守評価					承認	作成	
					戸沢	戸沢	
					作成日	2011/4/1	2011/12/1
					改定日	2018/12/26	2018/12/26
					遵守評価		
No	法律・条例・その他名称（最近の改正年月）	規制内容	当社が該当する 機械設備・施設・作業等	当社の対応状況（許可、届出、記録、報告等）	実施日	実施者	結果 (○△×)
騒音・振動	騒音規制法 (H26年6月18日改正)	工場・事業騒音の規制	液圧プレス・せん断機・切断機等	騒音規制法に該当する、特定施設設置届出書を確認した	2024/12/27	岡本	○
		建設作業騒音の規制		騒音には十分に注意する。夜間の残業をなくすように努めている	2024/12/27	岡本	○
		自動車騒音の規制					
	深夜騒音等の規制						
振動規制法 (H16年6月9日改正)	都道府県知事によって、振動を防止することにより住民の生活環境を保全する必要があると認める地域が指定され、この指定地域内での振動が規制対象となる	液圧プレス・せん断機・切断機等	振動規制法に該当する、特定施設設置届出書を確認した	2024/12/27	岡本	○	
			振動には十分に注意する。夜間の残業をなくすように努めている	2024/12/27	岡本	○	
大気汚染	埼玉県生活環境保護条例 (H21年4月16日 更新)	アイドリングストップの励行	ガソリン自動車、ディーゼル自動車	運転手へのエコドライブ教育の実施	2024/12/27	桑野	○
		ディーゼル自動車の排出ガス規制（初度登録から7年経過したものの多くは排出ガス低減装置の装着義務）	ディーゼル自動車	初度登録から7年以上のディーゼル車の有無のチェック、後付け排出ガス・低減装置装着の有無を確認	2024/12/27	桑野	○
		不正軽油（重油＋軽油等）の使用禁止	ディーゼル自動車	正規のガソリンスタンドで給油していることの確認	2024/12/27	桑野	○
フロン排出抑制	フロン排出抑制法 (H27年4月17日改正)	第1種特定製品(業務用エアコン、冷凍機等)を廃棄するときは、フロン回収業者に引き渡し、「引取証明書」をもらう	業務用エアコン	廃棄製品なし	2024/12/27	岡本	○
		第1種特定製品(業務用エアコン、冷凍機等)の管理者判断基準に基づき、管理する第1種特定製品について点検等を実施します		業務用エアコンの、第一種簡易点検記録簿を使用し点検	2024/12/27	岡本	○

No	法律・条例・その他名称（最近の改正年月）	規制内容	当社が該当する機械設備・施設・作業等	当社の対応状況（許可、届出、記録、報告等）	実施日	実施者	結果（○△×）
リサイクル	特定家庭用機器再商品化法 (家電リサイクル法) (H22年5月19日改正)	対象機器 テレビ（液晶プラズマ含む）、エアコン、電気冷蔵庫及び冷凍庫、電気洗濯機、衣類乾燥機、10業種・69品目(一般廃棄物及び産業廃棄物の5割をカバー)	家庭用エアコン、テレビ	廃棄製品なし	2024/12/27	岡本	○
	資源の有効な利用に関する法律 (資源有効利用促進法) H17年度改正	事業者に対して3Rの取り組みを定めている	事務機器等	廃棄製品なし	2024/12/27	岡本	○
化学物質	PRTR法 (H20年11月12日改正)	人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質が、事業所から環境（大気、水、土壌）へ排出される量及び廃棄物に含まれて事業所外へ移動する量を、事業者が自ら把握し国に届け出をする	メタクリル酸メチル他	届出対象の使用量ではないが、使用量の削減に努めている。	2024/12/27	戸沢	○
安全衛生	労働安全衛生法 (H28年6月1日施工)	化学物質のリスクアセスメントの実施	接着用溶剤・塗装用塗料他	化学物質のリスクアセスメント手順書に基づき、実施している	2024/12/27	戸沢	○
火災予防	消防法(火災予防条例) (H24年12月1日改正)	延面積が150㎡以上のものには消火器具を設けなければならない	事務所・工場へ消火器の設置	定期点検・8年ごとの交換	2024/12/27	小泉	○
		不特定の人が入り出る建物で、収容人員が30人以上、かつ延べ床面積が300平方メートル以上	防火管理者の届出	防火管理者の選任・設置	2024/12/27	小泉	○

No	法律・条例・その他名称（最近の改正年月）	規制内容	当社が該当する 機械設備・施設・作業等	当社の対応状況（許可、届出、記録、報告等）	実施日	実施者	結果 (○△×)
廃棄物	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (H23年8月30日改正)	産業廃棄物			2024/12/27	岡本	○
		保管基準（周囲に囲い、流出防止、掲示板）	建設系廃棄物の処理	廃棄物置き場の表示板の確認	2024/12/27	岡本	○
		委託契約（2者契約、許可証写、最終処分）		委託契約書の確認	2024/12/27	岡本	○
		マニフェスト交付、未回収時報告		マニフェスト（控え、保管）の確認	2024/12/27	岡本	○
		書類の保管は5年間		委託契約書の確認	2024/12/27	岡本	○
		産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出		報告書作成・手続	2024/12/27	戸沢	○
		水銀使用製品産業廃棄物の規制	蛍光灯等	廃棄製品なし	2024/12/27	岡本	○
	北区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例 (H18年3月28日改正)	事業系一般廃棄物	事務所可燃・不燃ごみ	事業系ゴミ処理券貼付し定められた日に廃棄している	2024/12/27	前田聡	○
	川口市廃棄物の減量及び適正処理に関する条例 (H15年12月19日改正)	事業系一般廃棄物	事務所不燃ごみ	事業系ゴミ処理券貼付し定められた日に廃棄している	2024/12/27	前田聡	○
	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法 (H24年12月12日改正)	ポリ塩化ビフェニル廃棄物	キューピクル内コンデンサ	廃棄製品なし	2024/12/27	前田聡	○

⑨ 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

弊社の遵守しなければならない環境関連法規として、廃棄物処理法及びそれらに関連する東京都北区リサイクル及び一般廃棄物の処理に関する条例等があります。

弊社では、これらの法規制遵守のために、これらの法規制の一覧表(株式会社マエダ 環境関連法規等一覧表/遵守評価)を作成し、定期的に遵守状況をチェックすることにより、違反のないことを自主的に確認しました。

なお、これらの法規制に対する関係当局からの違反の指摘、及び関連する訴訟は過去３年間ありませんでした。

⑩ 代表者による全体評価と見直し・指示

継続した活動の効果が、行動に表れている。

5Sの取り組みとの連携強化が、さらなるエコ活動の推進に重要になっていくと考える。

今期は、受注量が大幅に増えたため各人のエコに対する行動の積み重ねが大きく影響を与えた。

活動については、根本原因など課題発見力の向上を引き続き望む。